



東洋水産から株主の皆様へ

第59期 決算のご報告

2006年4月1日～2007年3月31日

証券コード：2875



TOYO SUISAN

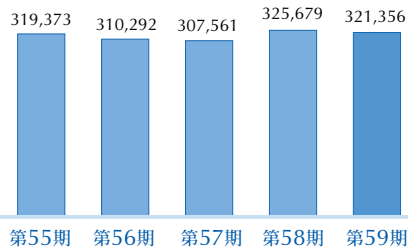
東洋水産株式会社

FINANCIAL HIGHLIGHTS

連結決算ハイライト

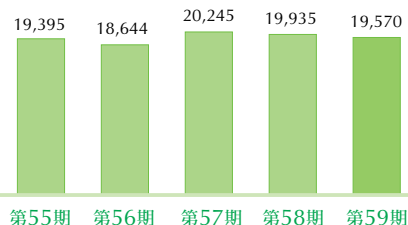
売上高 **321,356** 百万円

売上高の推移 (百万円)



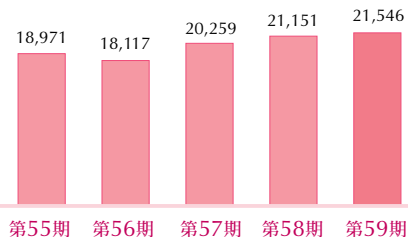
営業利益 **19,570** 百万円

営業利益の推移 (百万円)



経常利益 **21,546** 百万円

経常利益の推移 (百万円)



株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

さて、当社第59期（2007年3月期）の決算を終えましたので、営業の概況をご報告申し上げます。

厳しい経営環境の中、当社グループはさらなる発展を目指して、競争力を強化しスピードを以って改革を進めてまいります。そしてお客様から支持と信頼を得られる企業となり、企業価値を高め、株主利益の増大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加や雇用・所得環境の改善により景気は緩やかな回復傾向が見られましたが、原油価格の高止まりや個人消費の伸びの鈍化もあり、依然として今後の景気動向に対する不透明感もぬぐいきれない状況が続いております。米国の経済につきましては、失業率が引き続き低位で安定し、良好な雇用・所得環境を背景に家計部門を中心に堅調さを維持しました。

当食品業界においては、少子高齢化による市場の縮小傾向などから企業間競争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。また消費者の食の安全に対する厳しさは引き続き増しており、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応、環境問題への対応など企業の社会的責任がますます求められております。

そのような状況の中、当社は、「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを目的に、ISOの認証取得並びにその積極的な運用に取り組んでまいりました。また厳しい販売競争に対応するため、グループの生産・物流体制の再構築を進め、より一層のコスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高は前期に比べ1.3%減収の3,213億56百万円、営業利益は前期に比べ1.8%減益の195億70百万円、経常利益は前期に比べ1.9%増益の215億46百万円、当期純利益は連結子会社の田子製氷(株)を株式交換により完全子会社とした際に発生したのれんの減損損失を特別損失に計上したこと等により、前期に比べ55.3%減益の61億76百万円となりました。

次期の見通し

次期(2008年3月期)の見通しにつきましては、わが国の経済情勢は雇用・所得環境の改善による個人消費の回復、堅調な企業収益を背景とした設備投資の増加が続くことが予想され、国内民間需要を中心とした回復基調が維持されると想定しておりますが、原油価格の動向が内外経済に与える影響には引き続き留意する必要があるものと思われまます。米国経済は継続的な利上げや住宅価格の低下傾向に伴う資産効果の減衰などから個人消費を中心に緩やかに減速するものの、所得・雇用環境の改善維持や好調な企業収益を背景とする設備投資の拡大が景気の下支えとなると想定しております。

当業界におきましては原油価格高騰に伴う原材料費の上昇が収益へ与える影響が大きくなり、厳しい市場環境が継続するものと思われまます。また食の安全・安心など企業の社会的責任がますます求められていくものと考えております。そのような状況の中、当社グループは消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、高付加価値の商品を提案していきたいと考えております。さらに地域別・商品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施するとともに、前期以上の経常利益の達成を目指しております。また費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築、生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

以上により、次期の連結売上高は3,300億円、連結経常利益は220億円、連結当期純利益は120億円を見込んでおります。

なお、対米ドルの円換算為替レートは118.09円で想定いたしております。

2007年6月

次期見込 (2008年3月期)

連結売上高	330,000百万円
連結経常利益	22,000百万円
連結当期純利益	12,000百万円



コンプライアンス体制を強化し、積極的に企業倫理の確立を目指します。

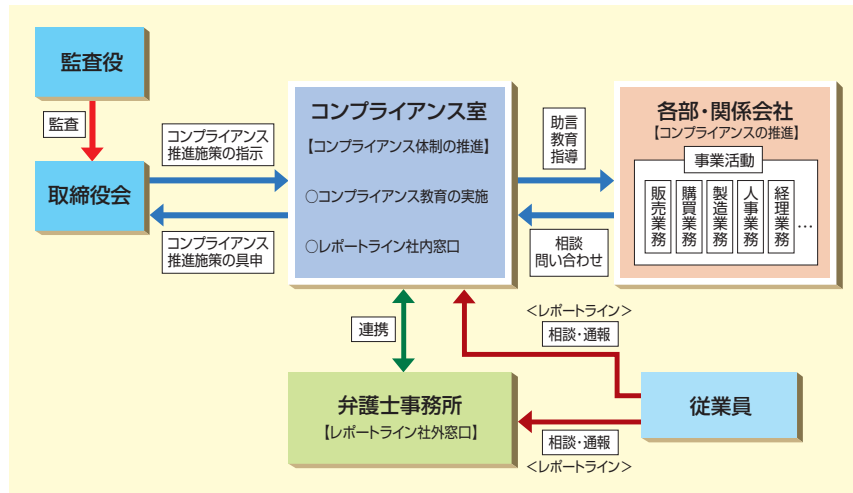
当社は、1953年の創業以来、「やる気と誠意」、そして「公明正大」という基本理念を不変かつあらゆる事業活動の根幹とすることで、お客様そして社会から信頼され事業を拡大してまいりました。

この「やる気と誠意」「公明正大」という理念の実践は、今日、企業がマーケットでビジネスを行う上で最低限備えるべき資格とされる「コンプライアンス（法令遵守）」ひいてはより高い倫理観、道徳観そして強い責任感をもって企業活動にあたる「CSR（企業の社会的責任）」そのものと考えます。

「食生活」を生涯にわたり支援する当社の仕事は、お客様や社会からの長期にわたる「信用・信頼」が事業発展のベースであり、また、役員および従業員の一人ひとりが自らを厳しく律

することが、「信頼される誠実な企業」「必要不可欠な会社」としての評価を得ることにつながることを自覚し、さらなる企業価値の向上、事業の長期的な発展を目指してまいります。

具体的には、昨年の会社法の施行および証券取引法の改正を機に、当社のコンプライアンスの取組に係わる基本的事項として「コンプライアンス規定」を制定しています。また、「コンプライアンス室」を新たに設置して推進体制を整え、コンプライアンスマニュアルの配布やコンプライアンス社内普及促進のための教育等を随時実施し、当社の発展の妨げとなる法令違反や不正等を未然に防止又は早期発見して是正することを目的とした内部通報制度「レポートライン」を導入しています。



全社員に配布された
コンプライアンスマニュアル



社内普及促進のための研修風景



商品ラインアップ

◆即席麺類

〔和風麺シリーズ〕



「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」「黒い豚カレーうどん」「あつあつ豚汁うどん」

お馴染みの、和風麺シリーズは、ますますラインアップも充実して、ご好評を頂いています。大盛タイプやミニカップ、地域の嗜好に合わせた商品など、お客様のご要望に合わせたきめ細かな対応を行っています。

〔昔ながらシリーズ〕



「昔ながらの中華そばしょうゆ」

「昔ながらのみそラーメン」

「昔ながらのとんこつラーメン」

発売以来、順調に売上を伸ばしているノンフライ袋麺シリーズ。麺は北海道小麦100%使用。だしの効いたスープが麺のおいしさを更に引き立てます。

〔麺づくりシリーズ〕



「麺づくり鶏ガラ醤油」「麺づくり合わせ味噌」「麺づくり鶏だし塩」「麺づくり濃厚豚骨」

生麺の味わいを再現したノンフライタイプのカップ麺。スープの味に合わせて麺の太さを変え、ラーメン屋さんの味わいを目指しています。

◆チルド食品



「えびシュウマイ」



「かにシュウマイ」



「黒豚シュウマイ」

好調に推移している“えびシュウマイ”“かにシュウマイ”。“黒豚シュウマイ”を加えてシリーズ品を充実させました。

◆生麺

〔焼そば〕



「焼そば3人前」



「塩焼そば3人前」



「醤油焼そば3人前」

発売から30年以上愛され続けるマルちゃん“焼そば3人前”。2007年1月より“醤油焼そば3人前”を加え、シリーズ品を充実させました。

〔ラーメン〕



「北の味わい醤油とんこつ」



「北の味わいざるラーメン」



「九州ガラ炊き黒とんこつ」

年間を通じて2食生ラーメンの主力品に成長した“北の味わい”シリーズ。2006年8月より“九州ガラ炊き”シリーズを発売し、生ラーメンのラインアップを充実させました。

◆加工食品

〔米飯〕



「あったかごはん」

お米本来の「味」と「香り」が活きています。

〔調味料〕



「だしの素100g」



「チャーハンの素 焼豚」

驚風味豊かなだしの素。顆粒タイプの4袋入り。

〔スープ〕



「もずくスープ5P」



「カップ入りめかぶとオクラのスープ」

健康ブームによって順調に推移しているフリーズドライスープ。

〔魚肉ソーセージ〕



85gx3本

「栄養機能」と「安心・安全」を兼ね備えたソーセージ。

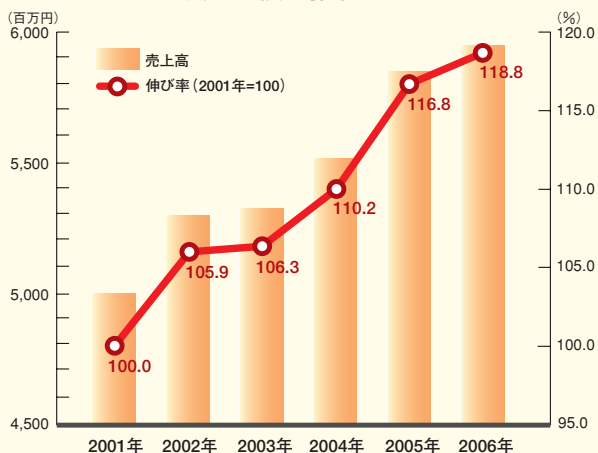
特集●ワンタンスープ

おいしさ、手軽さ
そして安全・安心な商品づくりで市場をリード。
ますます絶好調！マルちゃんのワンタンスープシリーズ。

業界に先駆けたデビューで不動の人気を獲得。

当社が初めてワンタンスープを発売したのは、1972年。いち早くワンタン素材に着目し、「トレイ入りワンタン」を開発しました。おいさと手軽さが受けて、この商品は発売と同時に多くのみなさまからご支持をいただき、一躍ヒット商品となりました。また翌年には、“より手軽に”との声にお応えして、当社初のカップ入り即席スープとなる「ホットワンタン」を発売。さらに1993年にデビューした「ワンタンしょうゆ味」は、ワンタンスープの定番商品となり、カテゴリーNO.1の人気とシェアを不動のものとしています。

◆ワンタン販売実績の推移



食の安全が問われる今日、当社では業界に先駆けてワンタンしょうゆシリーズの容器上蓋を2007年5月からリニューアル。従来のかぶせ蓋から、カップ容器にシーリングするタイプのかぶせ蓋に変更しました。これにより容器の密封性が向上し、よりいっそう、安定した品質を維持できるようになりました。この新しい上蓋は、当社と容器メーカーの共同開発によるもので、実用新案を出願中（2007年3月下旬）です。これからも安全と安心を追求し、新鮮でおいしいワンタンスープシリーズをお届けしていきます。



特殊加工が施された
直接シーリングタイプ
の上蓋

ワンタン しょうゆ味

チキンエキスをベースにした、すっきり醤油味スープ。女性に人気のお手頃サイズです。



ワンタン (トレイ入り)

コクのあるポークスープエキスをベースにした、スパイシーな醤油風味スープ。ご家庭で、野菜を加えて頂ければより一層おいしくお召し上がり頂けます。



ホットワンタン しょうゆ

豚肉の旨みと玉ねぎの甘みのあっさり醤油味スープ。ワンタンがたっぷり入ったボリューム満点の味わいです。

豊富なバリエーションで幅広い食のスタイルに対応。

お弁当やおにぎりなどのサイドメニューに、夜食や昼食の手軽なスープとしてなど、お客様のニーズや食スタイルの変化にお応えして、当社では商品バリエーションを充実させてきました。「たまごスープワンタン」「わかめスープワンタン」「スープカレーワンタン」をはじめ、2007年2月には「チゲ味スープワンタン」も新発売。また、カップタイプ、袋タイプ、4食パック等、お客様のニーズや商品の特徴に合わせ、容器の形状やサイズにも工夫し、幅広い品揃えに取り組んできました。さらに、当社独自の製法によって作られるワンタンは、カップラーメンの具として「激めんワンタンメン」などにも展開しています。多くのファンを獲得しながら市場を活性化させています。

人気の理由は素材の旨みたっぷりの スープとワンタンの食感。

「トレー入りワンタン（袋入り）」の発売から35年、「ワンタンしょうゆ味」がデビューして14年。ロングセラーとなった人気を支える最大の魅力は、素材の旨みが凝縮されたスープの味と、ツルンとした口当たりとソフトな食感が楽しめる特製ワンタンの皮にあります。むずかしいとされていた巾着型のワンタンづくりを当社独自のノウハウと技術によって完成させ、豚肉・玉ねぎ・ポテトをミックスしたオリジナルの具を包み込むことに成功しました。他では味わえない具入りワンタンの滑らかでコクのあるおいしさは、今日でも多くの方々に愛されています。

ますますバラエティー豊かに！ ご好評のワンタンスープシリーズ。



「チゲ味スープワンタン」 2月新発売
なめらかな口当たりのワンタンに、あざりと魚醤の旨みが広がるキムチ風味のピリ辛チゲ味スープ。



「たまごスープワンタン」
ほたてエキスをベースに、昆布やしいたけの隠し味を利かせた、ふんわりたまごがおいしいスープ。



「わかめスープワンタン」
磯の香りがうれしい肉厚の三陸産わかめと、風味豊かなホタテエキス入りのチキンスープ。



「スープカレーワンタン」
10数種類の香辛料でスパイシーに仕上げたコクと旨味のあるサラサラのスープ。



「たまごスープワンタンしょうゆ味」
なめらかで風味豊かなワンタンと、FD製法のふんわりたまごスープ。

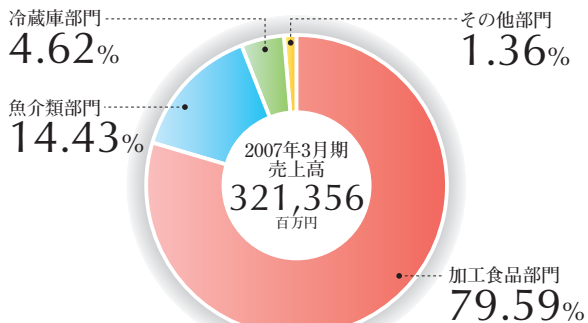


「ワンタンしょうゆ味4P」
ご家族いっしょの食卓に。ご旅行にも便利です。



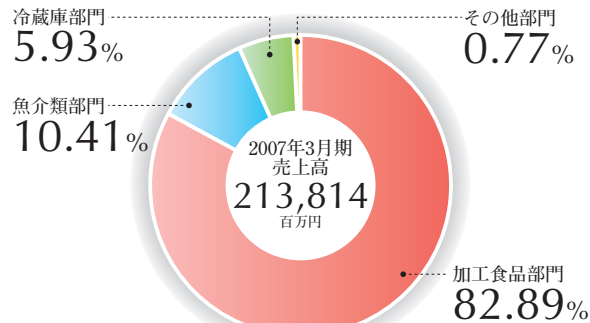
セグメント情報

連結売上高構成比



単体売上高構成比

〈ご参考〉



加工食品部門

売上高
255,781 百万円



国内即席麺事業のカップ麺のうち、和風麺においては映画とのタイアップ商品である「UDON 讃岐風うどん」、新製品「黄金色の天ぷら乱切りうどん」など積極的に販売攻勢をかけたましたが、暖冬の影響から売上はやや前年割れとなりました。また、ノンフライ麺の主力商品である「麺づくり」シリーズは新製品「坦坦麺」が寄与し順調に推移しました。その結果、カップ麺全体では微減となりました。袋麺においては、市況全般は低調に推移しましたが、各地区における主要スーパーとの販売促進の強化などにより、袋麺全体では増収となりました。

ならびに、ワンタン類も堅調に推移し、増収となりました。

生麺事業の売上は、新製品・リニューアル品は好調で売上に寄与しましたが、夏季及び冬季の天候不順の影響で、既存品は微減となり生麺全体では前年並みの実績に留まりました。

冷凍食品事業の売上は、冷凍麺及び冷凍調理品は順調に推移しましたが、冷凍野菜が減収となり全体では微減となりました。

米飯事業の売上高は、7月の無菌米飯第2ラインの稼動により、新製品投入及び積極的な販売促進が可能となったことから、米飯市場全体の伸びを上回る実績となりました。

その他加工食品の売上高は、スープ事業では「食物繊維入りたまごスープ」「黒酢入りもずくとじゅんさいのスープ」など消費者の健康志向

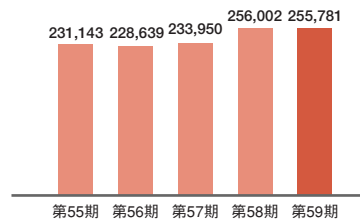
を考慮した新製品を発売し増収となりました。

以上の結果、加工食品部門の国内売上は総じて横ばいに推移しました。

また、海外売上高は微減となりました。

その結果、加工食品部門全体の売上高は、前連結会計年度に比べ0.1%減収の2,557億81百万円、営業利益は原油高に伴うコスト増加等が影響した結果、前連結会計年度に比べ5.6%減益の166億45百万円となりました。

(単位：百万円)



魚介類部門

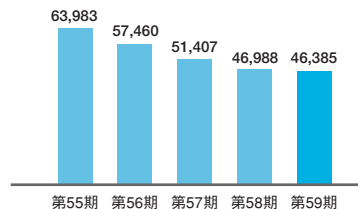
売上高
46,385百万円



魚介類部門は、中国・ロシア・欧米諸国の旺盛な買付意欲と水産資源の減少に伴い原料価格が高騰し、また、国内水産市況が低迷し取扱高

が減少した結果、売上高は前連結会計年度に比べ1.3%減収の463億85百万円となりました。営業利益は原料価格が急騰したマグロ、サバの販売が低迷したものの、鮭鱒・魚卵・カニ・イカ等の高付加価値加工品の販売を強化した結果、前連結会計年度に比べ65.7%増益の7億75百万円となりました。

(単位：百万円)



冷蔵庫部門

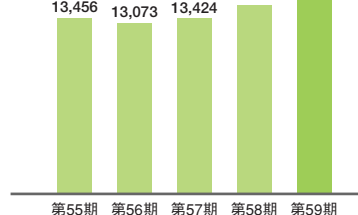
売上高
14,832百万円



冷蔵庫部門は、米国産牛肉の輸入が再開されたものの輸入量は伸びず、また水産物も欧米・アジア諸国の積極的な買付により価格が高騰し

て輸入量が減少したことなどの影響を受け、業界全体では在庫数量が下降傾向にある中、営業活動の強化を図り貨物集荷に努めた結果、売上高は前連結会計年度に比べ2.7%増収の148億32百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ38.0%増益の13億53百万円となりました。

(単位：百万円)



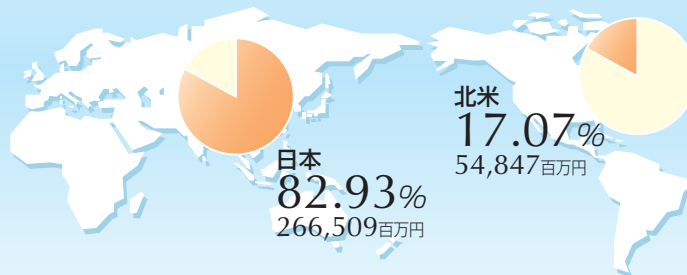
その他部門

売上高
4,356百万円

その他部門は、輸入牛肉・輸入加工食品の販売ならびに不動産賃貸等が主であります。化粧品製造販売を営む国内連結子会社を株式譲渡したことにより売上が減少したこと、畜肉の輸入販売を行う国

内連結子会社の売上が牛肉需要の減退により減少したことにより、売上高は前連結会計年度に比べ47.1%減収の43億56百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ6.0%減益の7億98百万円となりました。

所在地別売上高





連結財務諸表

◆連結貸借対照表(要旨)

科目	当期 2007.3.31	前期 2006.3.31
資産の部		
流動資産	105,083	103,067
現金及び預金	37,141	33,093
受取手形及び売掛金	43,271	43,086
たな卸資産	20,126	21,737
繰延税金資産	1,670	2,106
その他	2,991	3,106
貸倒引当金	△205	△62
固定資産	114,769	120,238
有形固定資産	91,530	96,436
無形固定資産	2,562	2,402
投資その他の資産	20,676	21,399
資産合計	219,852	223,306

会計基準の改正について

2006年5月施行の会社法により、会計基準を変更しております。

1. 貸借対照表

「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

2. 株主資本等変動計算書

【連結】「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

【単体】「利益処分計算書」が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これに伴い、期中における剰余金の変動は、新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分が廃止されました。

(単位：百万円)

科目	当期 2007.3.31	前期 2006.3.31
負債の部		
流動負債	55,456	46,573
固定負債	16,894	29,194
負債合計	72,351	75,767
少数株主持分		
少数株主持分	—	9,972
資本の部		
資本金	—	18,969
資本剰余金	—	20,155
利益剰余金	—	98,366
その他有価証券評価差額金	—	4,073
為替換算調整勘定	—	△949
自己株式	—	△3,049
資本合計	—	137,566
負債、少数株主持分及び資本合計	—	223,306
純資産の部		
株主資本	135,080	—
資本金	18,969	—
資本剰余金	21,412	—
利益剰余金	101,597	—
自己株式	△6,898	—
評価・換算差額等	1,907	—
その他有価証券評価差額金	2,555	—
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△646	—
少数株主持分	10,512	—
純資産合計	147,501	—
負債純資産合計	219,852	—

◆連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	2006.4.1~2007.3.31	2005.4.1~2006.3.31
売上高	321,356	325,679
売上原価	205,365	207,905
売上総利益	115,991	117,774
販売費及び一般管理費	96,420	97,838
営業利益	19,570	19,935
営業外収益	2,779	2,178
営業外費用	803	962
経常利益	21,546	21,151
特別利益	1,390	5,694
特別損失	6,040	2,050
税金等調整前当期純利益	16,896	24,795
法人税、住民税及び事業税	8,741	7,995
法人税等調整額	1,062	1,828
少数株主利益	915	1,157
当期純利益	6,176	13,813

◆連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	2006.4.1~2007.3.31	2005.4.1~2006.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,706	23,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,554	2,238
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,172	△23,557
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	468
現金及び現金同等物の増減額	4,041	3,015
現金及び現金同等物の期首残高	32,826	29,809
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	—	1
現金及び現金同等物の期末残高	36,868	32,826

連結財務諸表 POINT

<連結貸借対照表>

前連結会計年度末に比べ、総資産が34億53百万円減少しております。主な要因は、連結子会社の減少に伴う固定資産の土地の減少と前期に償還した社債の減少によるものであります。

<連結損益計算書>

前連結会計期間に比べ売上高は1.3%減収の3,213億56百万円となり、純利益は55.3%減益の61億76百万円となりました。主な要因は、減損会計基準に基づき、連結子会社ののれんおよび有形固定資産に対する減損損失を特別損失に計上したことによるものであります。

◆連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

	当期（2006.4.1~2007.3.31）										
	資本金	資本 剰余金	株主資本 利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	少数株主持分	純資産合計
平成18年3月31日残高	18,969	20,155	98,366	△3,049	134,441	4,073	—	△949	3,124	9,972	147,538
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当（注）			△2,047		△2,047				—		△2,047
剰余金の配当			△827		△827				—		△827
役員賞与（注）			△70		△70				—		△70
当期純利益			6,176		6,176				—		6,176
自己株式の取得				△7,150	△7,150				—		△7,150
株式交換		1,256		3,301	4,558				—		4,558
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					—	△1,518	△0	302	△1,216	539	△676
連結会計年度中の変動額合計	—	1,256	3,231	△3,848	639	△1,518	△0	302	△1,216	539	△37
平成19年3月31日残高	18,969	21,412	101,597	△6,898	135,080	2,555	△0	△646	1,907	10,512	147,501

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。



個別財務諸表

◆個別貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2007.3.31	前期 2006.3.31
資産の部		
流動資産	79,286	80,437
固定資産	87,219	91,011
有形固定資産	54,811	55,265
無形固定資産	2,251	2,132
投資その他の資産	30,155	33,613
資産合計	166,506	171,448
負債の部		
流動負債	67,141	52,357
固定負債	10,993	21,868
負債合計	78,135	74,225
資本の部		
資本金	—	18,969
資本剰余金	—	20,155
利益剰余金	—	56,251
その他有価証券評価差額金	—	3,845
自己株式	—	△1,999
資本合計	—	97,223
負債資本合計	—	171,448
純資産の部		
株主資本	85,913	—
資本金	18,969	—
資本剰余金	21,412	—
利益剰余金	54,194	—
自己株式	△8,663	—
評価・換算差額等	2,457	—
その他有価証券評価差額金	2,458	—
繰延ヘッジ損益	△0	—
純資産合計	88,370	—
負債純資産合計	166,506	—

◆個別損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2006.4.1~2007.3.31	前期 2005.4.1~2006.3.31
売上高	213,814	218,558
売上原価	123,889	129,433
売上総利益	89,924	89,124
販売費及び一般管理費	81,181	81,031
営業利益	8,742	8,092
営業外収益	1,794	1,734
営業外費用	794	916
経常利益	9,742	8,910
特別利益	941	6,093
特別損失	4,890	2,713
税引前当期純利益	5,792	12,290
法人税、住民税及び事業税	3,863	3,146
法人税等調整額	865	2,191
当期純利益	1,064	6,952
前期繰越利益	—	2,057
当期末処分利益	—	9,010

◆個別株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	当期(2006.4.1~2007.3.31)										純資産 合計					
	株主資本					評価・換算差額等										
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	その他利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計			
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計		固定資産 圧縮積立金	固定資産圧縮 特別勘定積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
平成18年3月31日残高	18,969	20,155	—	20,155	2,593	4,648	—	40,000	9,010	56,251	△1,999	93,377	3,845	—	3,845	97,223
事業年度中の変動額																
固定資産圧縮積立金の積立(注)	—	—	—	—	—	2,102	—	—	△2,102	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩(注)	—	—	—	—	—	△252	—	—	252	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮積立金の積立	—	—	—	—	—	693	—	—	△693	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—	—	—	—	△158	—	—	158	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立(注)	—	—	—	—	—	—	789	—	△789	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩	—	—	—	—	—	—	△789	—	789	—	—	—	—	—	—	—
別途積立金の積立(注)	—	—	—	—	—	—	—	2,000	△2,000	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当(注)	—	—	—	—	—	—	—	—	△2,184	△2,184	—	△2,184	—	—	—	△2,184
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	—	—	△885	△885	—	△885	—	—	—	△885
役員賞与(注)	—	—	—	—	—	—	—	—	△51	△51	—	△51	—	—	—	△51
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—	1,064	1,064	—	1,064	—	—	—	1,064
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△9,273	△9,273	—	—	—	△9,273
株式交換	—	1,256	—	1,256	—	—	—	—	—	—	5,869	7,125	—	—	—	7,125
合併による増加	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△3,259	△3,259	—	—	—	△3,259
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△1,387	△0	△1,388	△1,388
事業年度中の変動額合計	—	—	1,256	1,256	—	2,385	—	2,000	△6,442	△2,057	△6,663	△7,464	△1,387	△0	△1,388	△8,852
平成19年3月31日残高	18,969	20,155	1,256	21,412	2,593	7,033	—	42,000	2,567	54,194	△8,663	85,913	2,458	△0	2,457	88,370

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。



支店・営業所

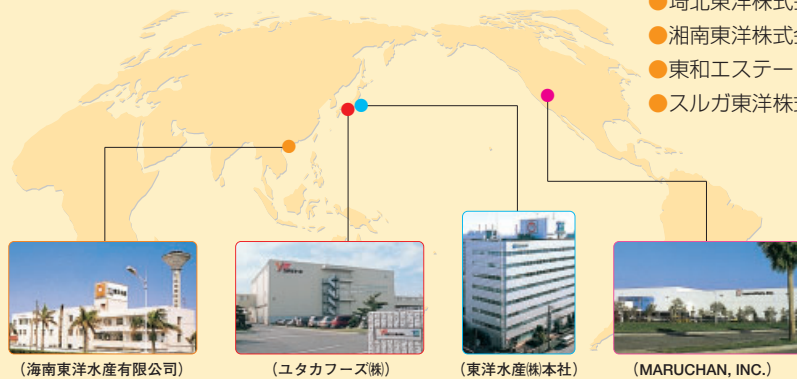
- 札幌支店 (札幌支店、旭川営業所、函館営業所、帯広営業所)
- 東北支店 (八戸営業所、盛岡営業所、仙台営業所、秋田営業所、山形営業所、福島営業所)
- 信越支店 (新潟営業所、長野営業所)
- 北関東支店 (栃木営業所、茨城営業所、群馬営業所)
- 東京支店 (東京営業所、千葉営業所、神奈川営業所、埼玉営業所、甲府営業所)
- 静岡支店
- 名古屋支店 (名古屋支店、金沢営業所)
- 大阪支店 (大阪支店、中国営業所、四国営業所、沖縄営業所)
- 福岡支店

冷蔵庫

- 札幌冷蔵庫
- 石狩冷蔵庫
- 大井埠頭冷蔵庫
- 平和島冷蔵庫
- 城南島冷蔵庫
- 東扇島第一冷蔵庫
- 東扇島第二冷蔵庫
- 東扇島第三冷蔵庫
- 名古屋冷蔵庫
- 神戸冷蔵庫
- 舞洲冷蔵庫
- 福岡冷蔵庫
- 佐賀冷蔵庫

工場

- 札幌工場
- 埼玉工場
- 相模工場
- 焼津工場
- 田子工場
- 神戸工場
- 福岡工場



(海南東洋水産有限公司)

(ユタカフーズ(株))

(東洋水産(株)本社)

(MARUCHAN, INC.)

主要グループ企業

【国内連結子会社】

- 八戸東洋株式会社
- 伊万里東洋株式会社
- 甲府東洋株式会社
- 株式会社フレッシュダイナー
- フクシマフーズ株式会社
- 株式会社東京商社
- 東洋冷凍株式会社
- 銚子東洋株式会社
- サンリク東洋株式会社
- ユタカフーズ株式会社
- 株式会社酒悦
- 石狩東洋株式会社
- 新東物産株式会社
- ミツワデイリー株式会社
- 東部貿易株式会社
- 築地東洋株式会社

【海外連結子会社】

- MARUCHAN, INC.
- MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- MARUCHAN DE MEXICO, S.A. de C.V.
- SANMARU DE MEXICO, S.A. de C.V.
- PAC - MARU, INC.
- SEAFREEZE LIMITED PARTNERSHIP

【非連結子会社他】

- ヤイズ新東株式会社
- 下田東水株式会社
- 三幸養魚株式会社
- 海南東洋水産有限公司
- 埼玉東洋株式会社
- 湛江東洋水産有限公司
- 湘南東洋株式会社
- 株式会社いらご研究所
- 東和エステート株式会社
- 青島味豊調味食品有限公司
- スルガ東洋株式会社
- 仙波糖化工業株式会社 ※

※持分法適用関連会社



◆会社概要

創立 1953年3月25日
本社 〒108-8501
 東京都港区港南二丁目13番40号
 電話 (03) 3458-5111 (代表)
資本金 189億6,952万円
従業員数 1,620名 (男性1,110名 女性510名)
事業所数 工場7、冷蔵庫13、支店・営業所28
関係会社 国内関係会社25社
 (うち、連結子会社16社、非連結子会社7社、関連会社1社、
 持分法適用会社1社)
 海外関係会社9社
 (うち、連結子会社6社、非連結子会社3社)

◆役員 (2007年6月28日現在)

代表取締役会長	深川 清司	常勤監査役	北村 勝久
代表取締役社長	堤 殷	常勤監査役	南 守之
専務取締役	織田 睦彦	社外監査役	高良 明
常務取締役	成滝 勝郎	社外監査役	森 勇
取締役	目羅 甚一		
取締役	谷口 文夫		
取締役	佐藤 勝英		
取締役	山内 寛		
取締役	山下 透		
取締役	三浪 博行		
取締役	菅原 謙二		
取締役	小畑 一雄		
取締役	手嶋 専市		

■新マルちゃんキャラクター



1962年、東洋水産がお届けする加工食品類の安心と信頼のシンボルとして誕生した「マルちゃん」マーク。

1968年には、「マルちゃん」マークを元に、おいしいものを食べ過ぎてお腹が出てしまい、ズボンがすり落ちそうなユニークなポーズのマルちゃんのキャラクターが生まれ、販売促進物やノベルティとして活躍してきました。

そして、今回、愛らしい笑顔はそのままに、現代風の装いに生まれ変わり、新たにお姉さんと弟が加わって3人兄弟になりました。これからは、マルちゃんを中心に、3人が力を合わせ、おいしい笑顔の輪を大きく広げていきます。

もっともっと、皆様に笑顔を。どうぞ、新しいマルちゃんにご期待下さい。

■情報満載の当社HPもご覧ください。

<http://www.maruchan.co.jp/>





株式情報 (2007年3月31日現在)

◆株式の状況

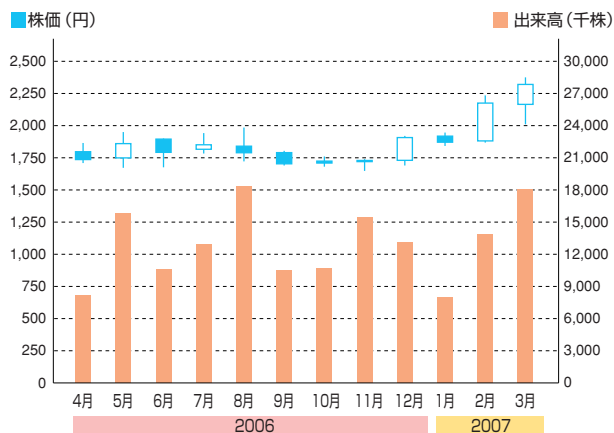
発行可能株式総数 427,000,000株
 発行済株式の総数 110,881,044株
 株主数 6,318名

◆大株主の状況

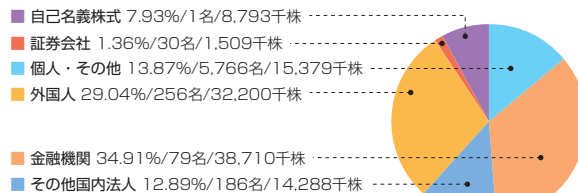
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,285	7.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,672	5.56
株式会社三井住友銀行	2,900	2.84
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,786	2.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	2,652	2.60
マルちゃん持株会	2,316	2.27
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	2,302	2.26
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	2,282	2.24

(注) 出資比率は自己株式(8,793,802株)を控除して計算しております。
 (注) 出資比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

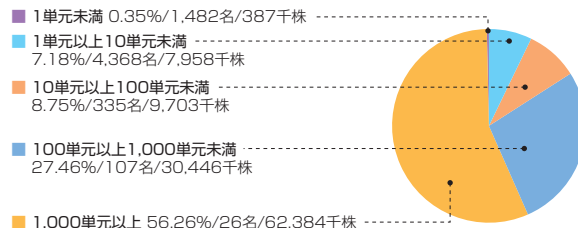
◆株価及び売買高の推移(東京証券取引所)



◆所有者別株式分布状況



◆所有株数別株式分布状況



株主優待制度

当社では、株主の皆様への利益還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

今年につきましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し5,000円相当の自社製品をそれぞれ6月に進呈させていただきました。



3,000円相当の製品例

◆ 株式事務手続きのご案内

当社の株式事務を取扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

● 電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031 (操作の方法は、音声案内にしたがってください。)

● インターネットによるご請求

ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

◆ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は毎年3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし、電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (アドレス) http://www.maruchan.co.jp/
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

東洋水産株式会社

 TOYO SUISAN

〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号

TEL (03) 3458-5111 (代表)

ホームページ <http://www.maruchan.co.jp/>

マルちゃん雑学館 Vol.6

「赤いきつねと緑のためきの道路標識？」



北海道の道路には、赤いきつねと緑のためきの図柄の動物注意看板があります。

場所は、北海道の高速道路「道央自動車道」の滝川市や深川市のあたり。この地域では、キタキツネやエゾシカなどが道路に侵入することがあり、ドライバーに注意を促すような看板が設置されたそうです。道路標識には、国土交通省令で定められた全国共通の「標識」と、道路を管理する自治体などが、夫々の地域の特殊性に合わせて独自の図柄で作る、云わば“ご当地もの”の「補助看板」がありますが、この看板は後者にあたります。

現在北海道で販売している赤いきつねは、2005年地元利尻昆布を使った地域限定版として生まれ変わり、「きたのきつね」の愛称で親しまれています。

 R100
食糧/包装/印刷/100%再生紙を使用しています

 PRINTED WITH SOY INK
地球環境に配慮した大豆インキを使用しています